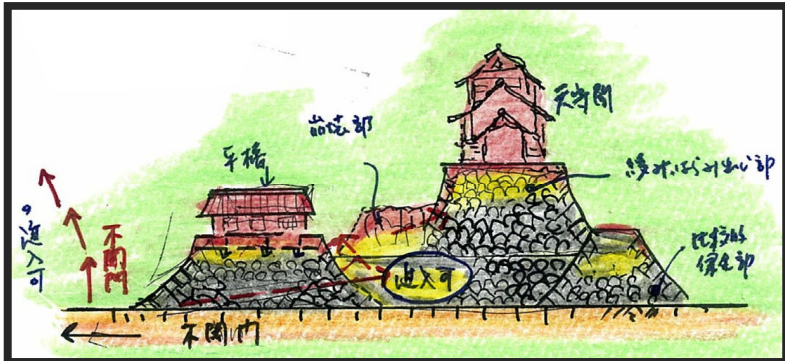


晴耕雨読

44

発行 株式会社 建設プロジェクトセンター
建設コンサルタント・補償コンサルタント・測量業・地質業登録
〒869-1234
熊本県菊池郡大津町引水215-1(技術研究所)
本社:熊本市/八代支店/合志営業所
TEL:096-293-4400/FAX:096-293-4885
E-mail:kenpro@muc.biglobe.ne.jp

Vol 44 Jan 2017 seikoudoku



不易流行の目線

平成28年4月、未曾有の熊本地震により熊本城を含め布田川・日奈久断層沿いでは、甚大な人的被害が発生しました。中でも熊本の象徴的シンボル熊本城の復旧復興には、長い年月と多額の費用が必要とされます。文化的特性を残しつつ不易流行の観点が必要と考えます。H/N



年に一度の恒例行事「餅つき」



青空の下 昼食タイム→しし肉と山菜おこわ

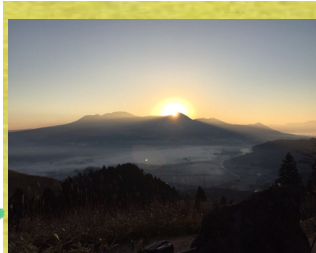
家族や御近所さん。ご近所さんの親戚や家族など年々人数が増え、子供の成長や年配者達の熟練の技のご披露等々…。毎度笑いの絶えない行事です。28年度の笑い納めとなりました。T/B

明けましておめでとうございます
謹んで新春のお喜びを申し上げます

今年は酉年という事もあり、多くの事をとり込み、熊本復興に向けて、より実りの多い年となります様『一所懸命』がまだします!!



平成29年 初日の出 ～穴場ス*ットより～



■ニ重峠からの朝日

年末から年明けにかけて晴天続きだったので、チョット足を延ばし“穴場”にご来光を拝みに…。元旦の「旦」は「日」の文字が太陽を表し、その下の「一」の文字が地平線を表し、地平線から太陽が現れる様子を示している象徴文字だそうです。H/N

正月は着物がよかねー



一年の始まりの正月は、皆で着物を着てお茶（敷内流）を頂く事が楽しみの一つ。子供のころからその習慣を身につけて貰いたいと思います。H/N



身近な地域復興への思い



我が家の同居人… ～ツマグロヒョウモン～

我が家の庭にはツマグロヒョウモンが自生しています。近年の温暖化の影響を受け、勢力を北に伸ばしているようですが、初めて庭先で見つけた時は、見た目が黒色で見るからに、刺すのではないかと思い駆除していました。しかしある時、気になって調べてみたら体中に突起はあるが、刺すこともない毒もないとのこと。刺さないと解ってからは、踏み潰さないよう足元に気をつけながら歩くようにしています。スマレ類の葉を食べるので、庭に自生しているスマレは除草せず餌場になっています。園芸家のみなさんには、花の葉っぱを食い散らかす害虫ですが、毒も危害も加えないので、それなりに処理していただくと嬉しいです。I/O



八代妙見祭【ユネスコ無形文化遺産登録】

何度も見たことのある神幸行列ですが、山車の幕がすべて金糸で刺繍されていると聞き、マジマジと見てみると、そのあまりの美しさに驚きました。T/B

梅の花

昨年2月に我が家の庭に咲いた梅の花です。今年もたくさんの蕾を付けています。N/S



■板栗のひょうたん石

風上げには糸のバランスが重要なんです。

身近な土木文化への思い

温もりのあるふるさと心象風景

平成になって29回目のお正月です。いつもと同じ年中無休の便利なコンビニが路線を並び立ち神社関係だけは大盛況の正月雰囲気です。年の早さと歳時記の喪失感を感じるのは昭和者でしょうか？



阿蘇市板栗にて撮影

昨年は大震を経験し、「電気」エネルギーだけで生活して我が家の無力さ「温かいお風呂」の恋しさ「トイレの水使用」のもったいないくらい量…。ライフラインの有り難さが身に沁みる経験もあり、隣保組みや地区の自治活動の盛んな所と希薄な所とでは、初期共助の連携に大きな違いが出たようにも思います。解決すべき内容や地域性、少子高齢化、地元の若い方も忙しい社会環境の中で時間が削げないのかもしれませんが、参加住民の多くは高齢の方が多く、参加者数が少ないこともあるようです。折角の地域づくりの機会には、機動力のある地元の若い世代の意見で盛り上げ、「温もりのあるふるさと」にして欲しいなと思うこの頃です。A/T

「ハートの石橋」復旧工事はじまる★

熊本地震で被災した美里町（双子石橋・ハートの石橋）として有名な二俣橋の解体・復元工事が始まりました。この橋は津留川に文政13（1830）年に架設された県下でも古い石橋の一つです。震災復旧においては、崩壊個所以外に壁石などのほらみ出し部の機能の可否診断するのに3Dレーザー調査を実施。その結果を基に何度も現地調査を重ねて復旧の方向性を立案。石橋の復旧はコンクリートや鉄骨等に比べて、材料も繊細であり、全て現況に合わせた石工の力量によるものが大きい。昨年石工養成講座で学んだ和歌山県の若者も参加。さらに一石一橋運動の声も聞こえてきました。皆で貴重な地域資源を大切にしましょう。K/N



■後記：平成28年4月の熊本地震では県内に大きな傷跡を残しました。復興の過程をスケッチや写真で伝える機会にもなりました。水源が枯れた南阿蘇村の塩井社水源など暮らしや風景が変わった地域もあり、その現実を伝えるべきことが沢山あります。今後も皆さんへ地域復興を中心に紹介してまいります。この晴耕雨読は職員の協力で発信しています。

身近な環境への思い

Human Architectur

暮らしを支える川づくり

白川中流部に位置する熊本市龍田陣内地区は、平成24年7月の九州北部豪雨で市内最大の浸水被害を受けたことを契機とし、流れが悪く大きく蛇行した河川をショートカットと河川拡幅によって流下能力アップを目指し、急ピッチで大規模な河川改修が進められています（写真-1）。慶長10年代（1607）熊本城や城下町の整備など熊本の礎を築いた加藤清正公以来（上絵図参照）の白川のショートカットで、工事も佳境を迎え多くの重機が忙しく稼働し、通水間近の状況となっています。河川整備は地域の人たちの思いも込めながら進められ、掘削工事で発生した急流河川特有の大小さまざまな自然石を多く活用しています。例えば50cm内外の玉石を利用した石積護岸や河川水衝部の洗掘防止のための巨石据え付けや護岸根固めに玉石等を配するなど、親水性や生物環境にも配慮されて、癒される河川空間の出現とともに安全・安心な地域へ日々変貌していく姿を間近に観察できる絶好な機会でもあり、近日の河川開通も楽しみです。B/I



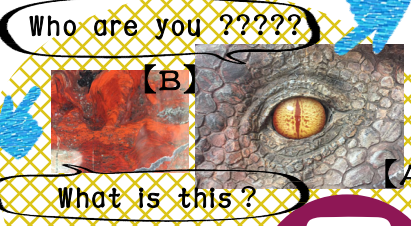
写真-1

慶長国絵図部分（新熊本市史より）

熊本散歩 ～里程元標跡～



熊本に引っ越して10年以上経つのに里程標跡を知らなかった。豊後街道沿いに三里木、六里木という地名があるのは知っていたが、里程元標跡は、西向きに築城された熊本城の正門登城口に当り、熊本城内と城下町を結ぶ接点であった新一丁目御門があった場所（新町1丁目）である。加藤氏時代から明治維新まで270年間肥後の国の路（豊前・豊後・日向・薩摩街道）の起点であった。N/S



A:御所浦町の恐竜 B:地球誕生時の石



歳神を家々に迎える依代

昨年末に、正月飾りの門松を始めて子供達と共同で作りました。門松は、お正月に歳神様が訪れるための依代（よりしろ）とされ、竹の切り口を斜めに切った「そぎ」は、徳川家康が生涯唯一の大敗を喫した三方ヶ原の戦い（1572年）後、甲斐の虎・武田信玄に対し「次は斬る」という念を込めたのが始まりと言われております。特に門松造りでは、この孟宗竹を斜め切り（そぎ）するのに子供達は試行錯誤し、寒い中で汗をかきながら頑張る姿、やり遂げ完成した門松を持ち上げ喜ぶ姿を見て子供が成長していく喜びを改めて実感しました。T/M



第一高校石橋の

たもとに数珠玉

先の地震で高欄と石垣が被害を受けた第一高校前の石橋の震災設計を行いました。当初、図面が見つからず、卒業生である家内に色々聞いたのですが、「裏口から出入りしていたので記憶がない」とのこと。後に図面が見つかり、外は石で中は鉄筋コンクリートということが判りました。外観は優雅で芯はしっかりしているということでしょうか。橋のたもとに数珠玉がきれいでしたてて我が家の花瓶へ活けました。M/T

数珠玉→